特定非営利活動法人

ちば環境情報センター

CEIC

2026．１１．　９発行　　ニュースレター第３５１号

写真等無断転載禁止

〒262-0019　千葉市花見川区朝日ケ丘 ５－２４－２
TEL. 090-7941-7655　　代表：小西　由希子
E-mail:yatsudasukisuki@gmail.com ，　Home　Page：http://www.ceic.info/

九十九里海岸たより ～生きたチョウセンハマグリが浜に～

大網白里町　平沼　勝男

2026 年８月 30 日、海岸に到着すると浜に大量のチョウセンハマグリが打ちあがっていました。とても広い範囲です。そのほとんどがまだ生きている貝です。しかしかなり弱っているようで、一部の貝が開いていました。その開いた貝の身をミユビシギやウミネコがついばんでいました。鳥たちにとっては思いがけない餌にありつけたようです。この後、他の浜にも行きましたが、場所により多い少ないはありますが、どこも同じような状況でした。



打ち上げられたチョウセンハマグリ(2026 年 8 月 30 日)

この貝をチョウセンハマグリと書きましたが、これは生物学的な正式和名です。一般的にはハマグリと呼ばれています。スーパーや魚屋さんで売られているハマグリはほとんどこのチョウセンハマグリです。チョウセンとは朝鮮の意味ではなく、漢字で書くと汀線蛤となります。外洋性のハマグリです。本当のハマグリ（正式和名：ハマグリ）は内湾性、昔は東京湾にたくさんいました。しかし今はほとんど見られなくなったようです。九十九里海岸は外洋に面していますのでチョウセンハマグリが生息しています。九十九里では重要な漁業資源でもあります。

なぜ、海岸に生きたチョウセンハマグリが打ちあがっているのでしょうか。千葉県中央博物館の人に聞いた話ですが、夜間、外気温が急激に下がると、海水温も急激に下がり、なおかつ海が荒れる、潮の干満の関係など、条件がそろうときに起きる現象だそうです。私はここ数年、チョウセンハマグリが打ちあがる現象を数多く見てきました。しかし、秋から冬にかけて起こることが多く、本当の冬の寒さが来た朝の現象と思っていました。月末とはいえまだ 8 月、こんな時期に起こるのは初めての経験です。しかもこれだけ体量の貝です。

チョウセンハマグリ以外にも大きなウバガイ（別名ホッキガイ）やアカニシガイも落ちていました。



ウバガイ(左)とハマグリをついばむウミネコ(右)

ちなみに、もっと寒い時期に、打ちあがって間もない新鮮なチョウセンハマグリを少々持ち帰って試食したことがあります。鮮度や味は問題ありませんでしたが、砂を吐く元気がないようで、口の中で砂がじゃりじゃりするため、あまりおいしいとは感じませんでした。

みつわ台公民館でエコクッキング

千葉市美浜区　高橋　久美子

2026 年 10 月 30 日（金）昨年に引き続いてみつわ台公民館でエコクッキング講座を行いました。参加者は 14 人。ちば環境情報センターの小西代表が講師を務め環境に配慮した炊事方法を学びました。

メニューはイワシのカレー焼き、カブのそぼろあんかけ、春菊と人参の白和え、サツマイモのシナモンシュガースティック、カブの葉と焼き麸のお吸い物の 5 品です。

イワシを手開きしたときの臓物の捨て方、カブやサツマイモの食材を皮ごと使い、極力食品ロスを出さないこと、だし汁で春菊をゆで、そのゆで汁をそのままお吸い物に使うことや、油の使用を最小限にする工夫など、随所に環境に対する配慮が盛り込まれていました。参加者からも「エコについてよく理解できた」、「意識が高まった」という」感想が寄せられました。

子どもが自然とゆたかにかかわるために大人がしなければならない事を考える　その７　～野生生物・馴化生物・培育生物（つづき）～

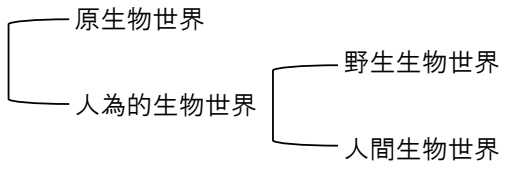
子どもと自然学会　船橋市　岩田　好宏

前号に続いて、野生生物・馴化生物・培育生物について考えましたことを述べたいと思います。

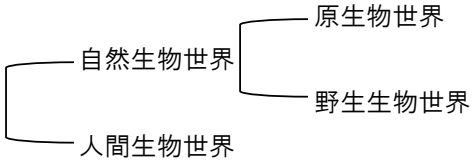
１．野生生物・馴化生物・培育生物の相互の関係

最初に、人間と生物世界との関係からみて、野生生物・馴化生物・培育生物の３つは、相互にどのような関係にあるか、はっきりさせたいと思います。ひとつは、この三つの考え方は、生物学的な概念ではなく、人間と生物世界という人間学的概念であることです。二つ目のことは、その人間と生物世界との関係を、人間の立場からみた場合と、生物世界自体の立場から見た場合とではどうちがうのかということをはっきりさせたいと思います。これは、次の２つの分類表をつくりますと可能になります。

人間の立場からの分類



生物の立場からの分類



上の分類表は、人間の立場から３つの生物世界を考え、人間の影響を受けたことのない、また人間が見たこともない生物世界とその他のちがいが、もっとも重大なちがいであることを確認するために示したものです。

これに対して右側の分類表は、生物の側に立ちますと、原生物世界と野生生物世界とでは大きなちがいがないという考え方から分類したものです。野生生物世界は、人間の影響を受けていますが、それは受けてないのと大きなちがいではなく、また他の動物と人間とは、大きなちがいがないということを表したものです。具体的にいいますと、狩猟・採集生活時代の人たちは、ある場所で食物源など獲得する中で、これ以上がんばっても大した収獲がないと判断しますと、その場所から離れて他の狩猟・採集場所に行きます。すると、それまで生活していた場所は放置され、人間のいない生物だけの世界となり、生物は、それ自体の理に則して繁殖と生育によってもとにもどります。これは、アフリカ大陸のサバンナ地帯でみられる動物群とまったく同じです。そして自然保護の観点から野生生物保全をどう進めるかを考えるためには、右側の分類表のように考えることが必要となります。

環境哲学で知られています桑子敏雄さんには、この野生生物世界という考え方がなく、原生物世界と人間生物世界だけとみていましたから、地球上には原生自然はないから、自然保護を人間が考える問題ではなくなっているからという理由で、環境論の立場から人間世界に的を絞って、農村世界と都市世界に分け、自然を人間の立場だけから考える環境論を展開されました（桑子敏雄. 1999.『環境の哲学』. 講談社. p. 185-203）。

２．野生生物世界と人間生物世界を形成している生物のちがい

三つ目のこととして、前号で述べました、野生生物・馴化生物・培育生物の３つが、具体的にどのような生物から形成されているかをはっきりさせなければならないと思い、次のような表をつくりました。

	野生生物世界	人間生物世界	
	野生生物	馴化生物	培育生物
生息動物例	西表島の奥地のイリオモテヤマネコ、深海のシーラカンス	ツバメ･ドブネズミ	ブタ･ニワトリ･動物園のレッサーパンダ
生息植物例	海崖地のキクバクワガタ、北海道天然針葉樹林内のイチゲイチヤクソウ	里山林のタチフウロ、畑と林の境界のニワトコ、畑地雑草のスベリヒユ、道端のブタナ	イネ、ジャガイモ
動物の場合の食物獲得	自体で	自体で	人間が意図的に提供している
外敵に対する安全確保	自体で	自体で	人間が意図的に保護している
人間生物世界への他地域からの移住	―	自体で	人間による

培育生物：飼育動物、栽培植物、培養細菌･菌類の総称

千葉市谷津田塾が開催されました

船橋市　長　正子

9 月 26 日、千葉市が主催する第３回谷津田塾が若葉区役所で開催されました。谷津田塾というのは、千葉市内の谷津田や里山をまわりながら谷津田の保全活動をしている団体と交流し、その保全活動に参加してくれる人材を養成するという講座で、ちば環境情報センターも参加する谷津田・里山の保全活動グループが長年、千葉市にその実施を要望してようやく実現した講座です。

講座は６回あり、１回目は開講式、２回目は田植え体験、３回目が今回の森の手入れでした。ちば環境情報センターが担当になり、下大和田の森を見てもらうべく、準備しました。ところが、9 月は雨が多く、この日も雨の予報となり、急遽、若葉区役所での座学となってしまいました。しかし紹介映像などの資料を用意し、小西代表が下大和田の斜面林の手入れの経緯や課題を説明。小田副代表が下大和田が本年度、環境省自然共生サイトに認定されたことなどを話しました。

次に講師の福島成樹さんが「里山林の植生と森づくり」について講演されました。森づくりに一番大事なのはその森をどのような森にしたいか？自然観察、ハイキング、景観林、薪炭を取る等、いろいろな目的がありますが、利用目的をまず、はっきりさせることが大事だとのお話がありました。そして植生調査や草刈り，間伐など手入れをしながらフィードバックしていく事が大切だと話されました。また、その地域に昔からある木を植える（遺伝子をかく乱させない)、希少種を守る、生物多様性を考える、資源の循環を考えるなどを教わりました。

最後に受講生にどんな森にしたいかを紙に書いてもらいました。キャンプファイヤーができる森、都会の喧騒から離れられる森、秘密基地がある森などユニークな意見もありました。若い男性、女性の参加もあり、多くの人たちが参加できる森づくりができたらいいなと思いました。充実した講座になりました。

生物多様青年,秋の活動報告

東邦大学理学部生命圏環境科学科 3 年　鈴木郁也

1. NPO 行徳自然ほごくらぶ研修～ナガエツルノゲイトウ防除～

9～10 月にかけての 3 日間、行徳鳥獣保護区を管理されている認定 NPO 法人行徳自然ほごくらぶにご協力いただき、研修(インターン)を受けさせていただきました。

今回の研修では、特定外来生物に指定されているナガエツルノゲイトウ(以下.ナガエ)の駆除作業を行いました。本種は地下茎を伸ばして増殖するほか、わずかな断片からでも再生します。そのため、いったん定着すると在来植物を急速に覆い尽くし、水面だけでなく陸上の植生までも占有されてしまいます。

防除作業は、まず生育範囲を丁寧に確認し、地下茎を切ってしまわないように注意しながら、自然薯掘りの要領で慎重に株を掘り取っていきました。植物体が少しでも残ると再び繁茂してしまうため、職員の方から「根を追い切ること」の大切さを繰り返し教わりました。掘り取った植物片は専用の袋に回収し、厳重な管理のもと処分が行われていました。

本研修で学び得たことは、侵略的外来種への対応における「初期段階での発見と迅速な除去」の重要性と、すでに侵入・定着が進んでしまった区域の「ゾーニング」の考え方です。

行徳鳥獣保護区では、ナガエのような外来種の侵入状況に応じて区域を細かく把握し、ゾーニングによって管理の優先度を整理していることが印象的でした。

研修で駆除作業を行ったのは狭い範囲でしたが、侵入の初期段階あるいは繰り返しの駆除によりナガエの勢力が衰えている地点でした。一度に広い範囲を駆除することは難しくとも、まだ勢力が弱い段階の地点や、希少種がいる地点などに優先順位をつけて、確実に駆除を行っていくことが、現実的かつ継続性のある保全対策であると学びました。そのためには、ナガエだけでなく、特定外来生物をはじめとする侵略性の高い外来種について幅広く知識を持ち、フィールドの微細な変化を見逃さない観察力を養うことが必要であると感じました。

また、限られた人員や時間の中でも、希少種の生育地や勢力の弱い地点を確実に守り抜くための努力や考え方を学ぶことが出来ました。

ここで得られた知見を活用して、自身の活動するフィールドのモニタリング計画や外来種対策を考え、実行していきたいと思います。改めて、ナガエツルノゲイトウ駆除のほか、さまざまな体験と研修の機会を提供してくださった行徳自然ほごくらぶ様に深く感謝申し上げます。

2. 令和 8 年度 ちばし地域づくり大学校(ステップアップコース)　”活動事例から学ぶ”活動発表

10 月 8 日(木)に千葉市役所会議室で行われた、ちばし地域づくり大学校(ステップアップコース)の講座にて、ちば環境情報センターの活動を発表しました。認知症カフェ和居和居さん、THUGAno わこども食堂さん、そして当会(発表者：鈴木)の順で講演が行われ、受講者さんとの質疑応答を行いました。

地域づくり大学校の受講生さんたちは、既に市民活動の経験が豊富な方も多く、双方向に学びあえる非常に有意義な時間となりました。

質疑応答では、市民運動に参加する若者の存在に強い関心が寄せられました。私自身が活動に参加したきっかけや、継続するモチベーションについて質問していただき、とても嬉しかったです。若い世代の参加に対する期待や興味が共有できたことに加え、「自然環境」という共通の話題が世代を超えた交流を可能にすること、それが今後の地域社会の発展において重要であることを意識してもらえたと思いました。

新浜の話　105　～沖縄泡瀬・やんばる遠征（2007 年 3 月 2～5 日）～

千葉県野鳥の会　市川市　蓮尾　純子

突如決まった沖縄泡瀬干潟遠征ツアー。泡瀬保護運動中心の山城正邦さんは、みごとな干潟をできるだけ多くの人に見せたいと思われていました。浚渫した土砂処理のための埋立て、できた土地は観光目的に、というのは何とも納得しがたい理由です。大潮の干潮時に歩いて行けるという岸から２キロも離れたサンゴ砂の島（初夏はコアジサシが繁殖）や、真夜中の夜光虫、ウミホタルも見てみたい。

観察舎スタッフ７名（佐藤達夫　野長瀬雅樹　鈴木陽子　岩崎加奈子　山本尚子　村上邦男　蓮尾純子）とインターンの南公一郎・板谷和樹、加えて友の会の鈴木裕子、西方明雄と、行徳組だけで計 11 名。NPO 大阪南港ウェットランドグループの村田（現在は若田姓）朋子、高田博さん、JAWＡＮの柏木実さん、藤前干潟を守る会の梅宮幸稔さん、吉野川の井口利枝子さん、そして NPO「どうぶつたちの病院」の長嶺隆、金城道雄さん、地元泡瀬の山城正邦、桑江直哉さん等々、錚々たるメンバーで、時ならぬ干潟シンポジウムのような催しに。コース、宿の手配から泡瀬ツァーのしおりまで、萌える案内人こと村田朋子さんが大ノリで準備。航空券やレンタカー手配はスタッフ任せ。運転は達夫さんと野長瀬さんが一切引き受け。超ハード、初体験ばかりのものすごいツァーになりました。

沖縄ツァーの行程は以下。

３月２日　那覇のホテル　サン・シー集合

３月３日　糸満市米須海岸（海中に湧き出す淡水を用水としてトラックで汲みに来ていた）ここで白いクロサギを初見。　保栄茂（びん）川河口　セイタカシギたくさん。

豊美城市三角池（達夫さんが数年前に標識足環をつけたクロツラヘラサギと再会）、空港南側の具志干潟を見た後、一路泡瀬へ　お昼過ぎ到着　昼の干潟歩き（白いサンゴ砂に黒いナマコ）　16 時前に昼食ホテルに戻る前に比屋根湿地へ（沖縄総合運動公園の一角から見る）。数百羽のムナグロ（ハルチジュヤー）が群れる。高台の東京第一ホテルへ荷物を置きに、続いて夕食（田芋のきんとんや泡瀬干潟のカラフルな貝など美味なのに、昼食後２時間の身には食べきれず）、高江洲公民館に移動して交流会。各地の情報交換、行徳組は百均でそろえた真っ赤なハッピで「ちごがに音頭」（一部沖縄弁―ウチナーグチに改編）の歌と踊りを披露。25 時 7 分の干潮に合わせて再度泡瀬干潟へ。ウミホタルや夜光虫の青白い美しい光をたんのうし、浅瀬を２㎞歩いて沖合のふしぎな中洲へ。

３月４日　大浦湾のマングローブ林　ここで解散し、行徳スタッフ組は更に北上、慶佐次のヒルギ林へ　楚州あさひの丘（廃校になった小中校を改造した宿泊施設）で泊　夜は金城道雄さんがヤンバルクイナの保護状況のレクチャー（堂々３時間）。前夜話し込んでほとんど寝ていない私は途中何度も居眠りしてとんちんかんな質問、達夫さんがはらはら。

「どうぶつたちの病院」は、対馬や西表島、小笠原、やんばるなど、絶滅危惧種の住む土地に動物病院をひらき、大きな問題となっている野良化した猫たちを「駆除」ではなく「保護して飼主を探す」という活動、そしてツシマヤマネコやヤンバルクイナ等の保護・増殖にも実績を上げておられます。金城さんにはいくらでも話したいこと、私たちは聞きたいことがありました。しかし眠かった。

３月５日　雨天　朝食前付近を車で一巡　ヤンバルクイナ観察小屋　ヤンバルクイナ救命救急センター（移転した幼稚園を改造し保護育成、繁殖を試みている施設）　美ら海水族館

空港　帰途に。悪天候で飛行機の発着が遅れ、終電に間に合わず。でも皆無事に帰宅できたようです。

（今月のスローマンはお休みします）

【発送お手伝いのお願い】ニュースレター2026年１２月号（第３５２号）の発送を１２月　７日（月）10時から千葉市民活動支援センター（千葉市中央区中央２-５-１　千葉中央ツインビル２号館９階）にておこなう予定です。お手伝いいただける方は小西 090-7941-7655）までご連絡ください。

…… あなたも入会しませんか ……

住所〒

ふりがな

氏名　　E-mail

NPO法人ちば環境情報センターのニュースレターは、リサイクルペーパーを使用しています。

編集後記：今年も「下大和田谷津田ごよみ 2027」を作成しました。今月のニュースレターに同封しましたので、ぜひご活用ください。写真は全て、掲載月に下大和田の谷津田・里山で、ちば環境情報センターの会員が撮影したものです。開発計画も予断を許しませんが、この貴重な環境を残す活動を継続していきますのでご協力よろしくお願いします。 mud-skipper

◆◆

【活 動 報 告】

＜下大和田の活動＞

第321回 下大和田谷津田観察会とゴミ拾い　2026年10 月 4(日) 晴れ

長かった雨降りもようやく途切れ、久しぶりの傘なしでの観察会になりました。しかし、千葉豪雨やそれに続く台風 25 号の影響で、水路は増水し畦は水没。歩くことができませんでした。参加者は 20 名。雨が多かった影響か、マンネンタケやカワラタケなどの堅いキノコやイヌセンボンタケのような可愛いものまで多様なキノコの形態を観察することができました。子どもたちは、ジョロウグモの雄雌の大きさの違いやコオロギを捕らえたナガコガネグモの獲物に糸を絡める速さに驚いていました。放棄された田んぼは一面ミゾソバの群落でおおわれていて、水田雑草の美しさを改めて認識しました。記念写真を撮影して、午後は有志で森の階段づくりをしました。

参加者２０名（大人１３名、大学生４名、小学生３名）報告：田中正彦

・・

第321回下大和田 YPP「古代米の稲刈り」　2026年１０月１７（土）　快晴

すばらしい秋晴れのこの日、３年ぶりに参加者を集めた本格的な稲刈りを行いました。昨年の11月から復田した元のマイ田んぼ。アシ原だった場所は見事な田んぼになり、そしてこの日、収穫の日を迎えました。刈り取る稲は古代米の一種の緑米です。同じく古代米の一種の赤米が少々。ともにもち米です。

思った以上に収量は多かったです。稲を干すオダが足りず２度にわたり継ぎ足ししたほどです。稲を刈っていて驚いたのはコナギが全くなかったこと。苗を植えた時期にはありました。カヤネズミの巣が全部で７つもありました。そのうち３つの巣にはカヤネズミが入っていました。かわいいカヤネズミの登場で、参加者は喜んでいました。12時過ぎて稲刈りが終了。おだ掛けが終了するのは14時を回っていました。

参加者２６名（大人１７名、大学生１名、中学生１名、小学生６名、幼児１名）報告：平沼勝男

・・

森と水辺の手入れ「森のタープ張りと階段づくり、オダの補強」　2026年１０月１８日　晴れ

駐車場横の森にタープを張り、その下に竹を並べて、木を乾燥する場所をつくりました。今後伐り出す木材が増えるのでそのために用意しました。前日に稲をオダがけしましたが、どうも強度的に問題があると思われる三か所を補強しました。竹を入れて脚を増やしました。力仕事でしたので、若い人が協力してくれてとても助かりました。

余った時間で森の中の階段作りと、焼却炉のテスト的な実演をしてみました。焼却炉は安全に燃やせて使い勝手も良いことがわかりました。皆が集まる木のテーブルの横の椅子に、シャチホコガの幼虫がいて、その特徴のある姿を皆で興味深く観察しました。

参加者１８名（大人10名、大学生３名、専門学校生1名、小学生３名、幼児１名）　報告：平沼勝男

・・

森の手入れ「伐木の整理と切り株の除去」　2026年１０月２５日（日）　曇りのち雨

２班に分かれ活動しました。1班は森の整備用の木材を収集し、先日作った乾燥小屋に搬入。２班はチェーンソーと斧で切り株の除去に従事しました。残念ながら雨が降り出したため、11時30分頃に活動をやめ、そのまま解散となりました。　参加者９名（大人７名、専門学校生1名、小学生１名）　報告：新井桂二

＜小山町の活動＞

☆あすみが丘小学校田んぼ脱穀・もみすり 2026 年１０月２７日（火）曇り　報告：江澤芳恵

天気予報では傘マークがついていたので、校内も使っての活動になるかと半ば諦めていたのですが、朝には雨もあがり、外で実施することができました。あすみ小は人数が多いので、1.2 組と 3.4 組に分けて行いました。2 クラス 60 人弱が 6 グループに分かれて、足踏み脱穀機、千歯こきによる脱穀、唐箕（とうみ）がけ、もみすり、縄ないなど行いました。それぞれの活動を 15 分ずつローテーションしていったので多少慌ただしかったのですが、ボランティアのお母さんたちが子どもたちに声かけしながら手助けしてくれたおかげで、子どもたちはすべての活動を事故なくスムーズに行うことができました。

☆大椎小学校田んぼ 脱穀・もみすり　2026 年１０月３０日（金）曇り　報告：高山邦明

あすみが丘小学校 5 年生の 120 人に対して大椎小は 17 人。それであすみ小とほぼ同じくらいの稲を脱穀、唐箕がけ、もみすりするので大変です。脱穀機、唐箕、もみすり機それぞれ 2 台をフル稼働させ、ボランティアの皆さんが熱心にサポートしてくださったおかげで、予定の時間に無事終えることができました。稲からお米に変わる工程を体験して収穫を手にし、子どもたちはとてもうれしそうでした。

☆第 250 回 小山町 YPP「脱穀①」　2026 年１０月１８日（日）晴れ　報告：高山邦明

オダ掛けして乾燥させたうるち米のはたはったんと黒米の脱穀をしました。脱穀には足踏み式の脱穀機、ごみを取り除くのには唐箕を使いますが、参加した皆さんには全員初めての体験。足でペダルを踏みながら手で稲を回転

するドラムに当てる作業は実際にやってみると意外に難しく、最初は戸惑っていましたが、少しずつ慣れて最後は軽やかな音を立てながら次々と脱穀してくれました。予定通り、昼前には終えてオダから稲がなくなりました。

参加者６名（大人６名）

☆第 251 回 小山町 YPP「稲刈り②」 2026 年**１０月３１日（土）晴れ**

YPP 田んぼの緑米の稲刈りを行いました。大人４人で、稲を刈るのはあっという間に終わったのですが藁で稲を縛るのは初めての人もいて「これでちゃんと縛れているのか心配」と言いながら、稲株を 5～6 株まとめては丁寧に縛っていきました。最後は縛った稲束を竹のオダに干して完成。一方、子どもたちは田んぼの中を元気に歩き回ったりゲンゴロウの仲間や小さなエビを見つけたり、泥んこになりながら楽しく過ごしました。並行して千葉豪雨以降ぬかるんだ広場の整備もしました。　**参加者９名（大人７名、小学生１名、幼児１名）報告：江澤芳恵**

【谷津田・季節のたより】 2026 年１０月

＜下大和田町＞　報告　平沼勝男

10/4 美しく咲くミゾソバにアオスジアゲハ、ミスジチョウ、キタテハ、イチモンジセセリなどチョウ類が蜜を吸いに来ていました。大きなお腹のオオカマキリとチョウセンカマキリを見ました。アキアカネやマユタテアカネ、いわゆる赤とんぼが飛んでいました。

10/11 ジョロウグモが大きくなり、大きな複雑な巣をつくっていました。ヤマガラ、コゲラ、アオサギ、ウグイス、ヒヨドリを見かけました雲一つない、秋らしい晴天でした。

10/17 ヒクイナが鳴き交わしていました。この日は稲刈りの日でしたが、稲刈りをしていると、カヤネズミの巣が７つもありました。可愛いカヤネズミにも会えました

＜小 山 町＞　報告：高山邦明

__草花の開花__：10/1 セイタカアワダチソウ・アキノウナギヅカミ　10/3 ヤマハッカ　10/10 コセンダングサ　10/11 ヤクシソウ　10/28 リュウノウギク

__観察記録__：10/1 オダ用の竹を斜面林で切っていたら足元からマムシがはい出してきてびっくり。　10/11 メスの大きなイノシシがワナにかかる、最近イノシシの足跡、荒らし跡をよく見かける、オオアオイトトンボが連結して飛翔。　10/12 林の中でシュレーゲルアオガエルが寝ぼけたような声で鳴く。　10/13 久しぶりにイタチを見かける。

10/14 千葉豪雨以降、今までいなかったウシガエルの姿をよく見かけるようになる。　10/15 アサギマダラの姿を見る。　10/20 夏日の陽気にツクツクボウシが鳴く、道路にシロマダラ（ヘビ）の死骸があった、クロコノマチョウが飛ぶのをよく見かける。　10/22 ウグイスがぐぜり鳴き。　10/28 渡りの途中のエゾビタキが現れる。

10/31 今季はじめてジョウビタキの姿を見る、カキの木に 10 羽以上のヒヨドリが集まっていた。

【イベントのお知らせ】主　催：ＮＰＯ法人　ちば環境情報センター

＜下大和田谷津田＞　連絡先：小西 TEL.090-7941-7655 ,　E-mail : yatsudasukisuki@gmail.com

・第 323 回下大和田 YPP「古代米のもみすり」

日　時：2026 年**１１月１４日（土）　１２時３０分～１５時**

場　所：大草谷津田いきものの里

持ち物：マスク、手袋、帽子、飲み物など　**参加費**：無料

・森と水辺の手入れ＆森の手入れ

日　時：2026 年**１１月１５日（日）, ２２日（日）　９時 45 分～１２時　雨天中止**

内　容：自然観察路,駐車場の整備、倒木の整理などを行います。

持ち物：長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物、午後まで活動する方は弁当、敷物　**参加費**：無料

・第 323 回　観察会とゴミ拾い

日　時：2026 年**１２月　６日（日）　９時 45 分～１２時　雨天決行**

内　容：木々の黄葉を楽しみながら冬越しにやってきた鳥たちを求めて谷津と森をめぐります。

持ち物：筆記用具、飲み物、長靴、帽子、ゴミ袋、敷物　**参加費**：100 円

・第 324 回下大和田 YPP「収穫祭」

日　時：2026 年**１２月 １２日（土）　９時 45 分～１４時**

内　容：今年の米づくりの収穫をお祝いしていろいろなイベントを行います。詳細未定。

＜小山町谷津田＞

▼第 253 回　小山町　YPP「田んぼの整備」

豪雨で土砂が流入したり、水路が壊れたりした田んぼの整備をします。

日　時：2026 年**１１月２８日（土）　９時～１２時　☆小雨決行　場　所**：小山町谷津田（千葉市緑区）

持ち物：長靴・軍手・飲み物　**☆どなたでもお気軽に参加いただけます。お問い合わせは、ceic.ypp.oyama@gmail.com まで**

◆◆